

# 専教寺報

浄土真宗本願寺派 一乗山 専教寺

題字 大橋曾水

〒714-1201 岡山県小田郡矢掛町矢掛2033

TEL.0866-82-0488

URL.<https://www.senkyoji.com/>

E-Mail.[senkyoji@senkyoji.com](mailto:senkyoji@senkyoji.com)



## 遠く宿縁を慶へ

住職 釋龍生

五才になる息子が、就寝前、母親に毎日、絵本を読んでもらっている。寝る前になるとそれをせがむように楽しみにしている。

息子がこども園に通い始めた頃、園に迎えに行く時、教室の傍らで二、三人の子どもとともに、絵本を開いて熱心に見ていた姿を、今でも強く記憶している。

息子が生まれた時から、その成長とともにすること、私は今まであまり関心がなかった絵本を意識するようになった。さまざまな

絵本の中でも、息子にも読んでもらいたい、「私の絵本ランキング」

に、加古里子（かこさとし）氏の絵本がラン

クインしている。特に加古氏の代表作「からすのパン屋さん」が刊行されて、五十年が経つそうだ。カラスの夫婦に四羽の子どもが生まれて、仕事と子育て

の両立で大忙しの日々ながら、家族で力を合わせて困難を乗り越えていく。我が家の子どもは四人もいないが、さながら「仕事と子育ての両立で大忙しの日々」というのは我が家と似通っていて、共感できて微笑ましい。そんな

加古氏の「人間」とい

う絵本に、こんな一節がある。

ひとりの人間は、年がたてば死にますが、子にわたった「生命の設計書」は「千年も万年も」生きつづけるのです。いまあなたが生きていくのは、こうして「生命の設計書」が、

およそ四十億年ひきつがれてきたからです、人間のあつまりがささえとなってきたからです。そしてその「生命の設計書」は、これからも人間とそのまま

りによってうけつがれていくことをおもえば、おやみに死をおそれることもないし、死の悲しみものりこえられることでしょう。  
三月の法語に、「仏さまは教えてくれる

命はめぐって今日がある」と掲示した。命はめぐること、お念仏、阿弥陀さまの救いのおはたらきに出会う今日がある、という意味である。

親鸞聖人（以下、宗祖）の有名な和讃に、おんくみさん 恩徳讃がある。

如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も ほねをくだきても謝すべし

この和讃の意味は、私たちをお救いくださる阿弥陀仏のたいなる慈悲の恩徳と、教え導いてくださる釈尊や祖師がたの恩徳に、身を粉にしても骨を砕いてでも、深く感謝して報いていかなければ

ばならない、という意味である。

阿弥陀さまは、私たちに救うために、ごしゅう 五劫という気の遠くなるような時間をかけて思案されて、ちゅうやく 兆載永劫という、これまで途轍もなく長い時間、

身を粉にして、骨を砕くようなご労苦を全うして仏さまとなられた。そして私たちが、阿弥陀さまのことを知る以前から、私たちを優しく包み込んで、その功徳を南無阿弥陀仏というお名号に込めて、はたらき続けてくださっている。しかしその阿弥陀さまのことを、私たちに伝えてくださる先達がいなかったら、この先もずっと、阿弥陀さま

の救いのおはたらきを知らないままで、お念仏に出会うことはなかっただろう。私たちは、身を粉にしても、骨を砕きても、返しきれないご恩を、阿弥陀さまや先達からいただいている。

先の加古氏の言葉の、「生命の設計書」のように、お念仏のことや、お念仏をいただくことが、先達を支えとしながら、お念仏に出会う今日に受け継がれていく。

遠く宿縁を慶べ、そんな宗祖の言葉が世界にこだまする、そんな世の中になれば良い。



# 除夜会

令和5年12月31日（日）

ありがとう

坊守 佐々木ひろみ

この寺報にも何度か書かせていただいたことのある、我が家の犬、ネオが、先日亡くなりました。昨年度末から糖尿病になり、朝晩の注射を続けていたものの、以前のように散歩にも行けるようになり、じゃれることもできるようになっていました。ただ、時々、足に力が入らずスムーズに立ち上がれないことがありました。それでも、年をとったからかな、元気でいてくれたらいいわ、と思っていたのです。これからもネオの

いる生活が続くと思っ  
ていたら突然、でした。  
ネオは、それまでの飼  
い主さんが事情により  
飼えなくなったので、  
里親として二歳の時に  
我が家へやって来まし  
た。犬の歳で少年だっ  
たネオは、よく甘えま  
した。大きな体で飛び  
ついてくると、私と同  
じぐらいの身長で、こ  
ちらがびっくり返りそ  
うになる程でした。の  
ちに、息子が生まれて  
からは、とても優しく  
見守ってくれました。  
息子が泣いていると、  
私を呼びに来てくれた  
り、私が息子を注意し  
ていると、間に入って  
「やめてあげて」と私  
の肩に手を置いてきた  
りしました。初めて息  
子を犬の散歩に同行さ  
せたときには、ゆっく  
り歩く息子のペースに  
合わせて歩いたり、息  
子が立ち止まっている  
と追いついてくるまで、  
絶対にそこを動かす待っ  
ていたりしてくれまし  
た。穏やかで、本当に  
優しい犬でした。また、  
人が大好きで、ご門徒  
が用事で来られると、よ  
喜んで迎えに出て、よ  
く撫でていただきまし  
た。かわいがっていた  
だき、ありがとうございます  
いました。  
お別れの日には、前  
の飼い主さんに連絡を  
しました。すると、都  
合をつけて、ネオに会  
いに寺まで来てくださ  
いました。本当にかわ  
いがっておられたので、  
ネオに対面されると、  
しばらくの間、話をさ  
れていました。そして、  
「また、会えるかな。」  
と言われました。わた  
しも同じ気持ちでした。  
ネオも、普段から住職  
のお勤めを近くで聞い  
ていましたから、自ら  
お念仏をいただくこと  
はできなくても、ちゃ  
んと阿弥陀さまに救わ  
れてお浄土にお参りし  
たかな。またお浄土で  
会えるかな。と思って  
いました。そして、ネ  
オが自分の生涯を通し  
て、改めて教えてくれ



たことがあります。それは、私たちが当たり前前に生活する日常は、実は当たり前前ではなく、死が突然訪れることがあるということ。また、それ故に、人生で生じる苦しみや喜びを噛みしめながらお念仏をいただき、他の生きとし生けるものと共に、互いに大切に思いやり、精一杯生きることです。

ネオに心からありがとう、と伝えたいです。



## 元旦会

令和6年1月1日(月)

### 傾聴

衆徒 佐々木龍三

一月に能登半島地震がありました。皆様の中には、お身内、お知り合いで被災された方がおられるかもしれませんが、被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

私は、昨年四月から保育園の園長を務めております。保育園との関わりの中で「傾聴」の大切さを改めて感じました。

「傾聴」について最初に学んだのは、東日本震災の時でした。被災

された方の多くは「自分の苦しみは同じ体験をした者にしか分からない」と思っておられます。安易に「お気持ち分かります」とか、「頑張ってください」というのは寄り添いにならないこともあり、逆に相手を辛くさせてしまうことがあります。すべて

の気持ちは分からないけれど、あなたの気持ちを少しでも分かったいと傾聴を重ねて、しっかりと相手の思いを受け止めることが、本当に必要な支援に繋がると感じました。

園児との関わりでも同様のことを思いまし



た。保育園では、次のよ  
うな事例がよくあります。  
園児同士のトラブルで、  
ボールを持つているAちゃ  
んがBちゃんを叩いて、  
Bちゃんが泣いています。  
それを見た私は、Aちゃ  
んに問題があると、頭  
中で即断してしまいまし  
た。もちろん相手を叩く  
ことはよくありませんが、  
「どうしたの？」と、二  
人に事情を聞いてみると、  
BちゃんがAちゃんのポー  
ルを獲ろうとしたのが原  
因でした。Bちゃんにも  
理由があって、他のポー  
ルではなく、Aちゃんの  
ボールが欲しかったと。  
事情を深く聴かなけれ  
ば、真実はわからないも  
のですね。一部の状況や

思い込みでの判断は、人  
の心を傷つける危険性が  
あります。SNSでも問  
題になっていきますね。大  
人になると、自分の経験  
の範囲で、自分の判断が  
正しいとすぐに思い込ん  
で行動してしまうことが  
多くあるように思います。  
阿弥陀さまのように、人  
の心を見通せる智慧の眼  
があれば、すべてを一瞬  
で正しく理解できますが、  
そのような眼を持ってい  
ない私は、しっかりと人  
の話しを傾聴し、正しい  
事情と人の気持ちをわか  
ろうと努めることが大事  
になります。傾聴は、工  
ネルギーを要しますが、  
人の気持ちを受け止め、  
寄り添うことに繋がる第

挿絵 内村 壽美子



一歩です。  
「どうしたの？」と、  
どんなときでも傾聴を忘  
れないように心掛けてい  
きたいと思います。

### 4月28日に、当山では永代経法要をお勤めいたします

今年の永代経法要は4月28日（日）です。ぜひお参りいただき、ともに「阿弥陀経」をご唱和して、仏さまになられた先達のご縁に遇わせていただくと同時に、お念仏のみ教えをいただく私達が、社会をともに生きる上で本当に大事なことは何なのか、考える機縁にさせていただけたらと思います。（今年度も、日程を短縮して、午後にお勤めいたします）

このたびのこのご縁は 初事と思うべし      このたびのこのご縁は 我一人の為と思うべし  
このたびのこのご縁は 今生最後と思うべし



**親鸞聖人御誕生850年**  
**立教開宗800年**  
**備中里組慶讃法要**

浄土真宗本願寺派  
備後教区 備中里組

2024(令和6)年

5月24日(金)

13:00 開始 / 12:30 開場 / 16:00 終了

やかげ文化センター(大ホール)

岡山県小田郡矢掛町矢掛 2677-1 TEL:0866-82-2100

記念法話: 節談説教研究会・壽光寺住職  
等 慶典師 「遠く宿縁を慶べ」

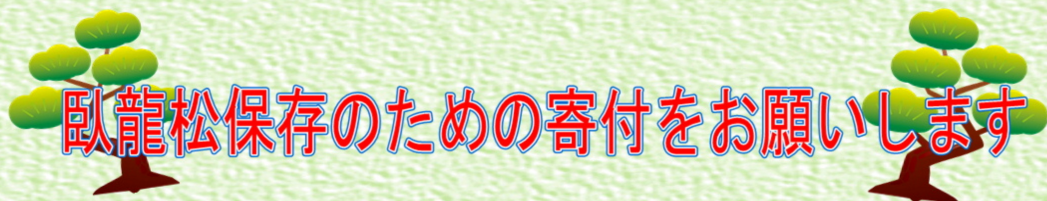
仏教讃歌 「心に寄り添い導かれる歌」  
ソプラノ 奥野 純子

お問い合わせ

専教寺 TEL:0866-82-0488

ぜひ、ご来場ください  
ご一緒にお念仏を申しませう  
ご来場される方は、専教寺まで、ご連絡ください。





臥龍松保存のための寄付をお願いします

臥龍松を維持管理するには  
たくさんのお金がかかります。  
矢掛町の重要文化財の保存に  
ぜひともご協力下さい。

一口1,000円から受付けています。  
1,000円ご寄付の方には臥龍松のポストカード  
をプレゼント。お寺にご連絡下さい。



※この寄付はあくまで任意です。

## 専教寺からのお知らせ

### 仏教讃歌

4月9日（火）午後1時30分～

### 境内清掃奉仕

4月14日（日）午後1時30分～（約1時間）

### 永代経法要

4月28日（日）12時～（午前11時30分～受付）

講師：広島県福山市・照専寺 佐々木 至成 師

